

地域の資源を繋ぐのが  
私たち地域メディアの  
たいせつな役割です。



## 株式会社FM桐生

桐生市



- ▶ 代表者: 塚越 隆史
- ▶ 住所: 桐生市本町5-365-1 桐生ガスプラザ3階
- ▶ 設立年月日: 2007年1月24日
- ▶ TEL: 0277-22-3339
- ▶ 資本金: 5,700万円
- ▶ Mail: radio@fmkiryu.jp
- ▶ 従業員数: 正社員4人・契約社員2人
- ▶ URL: www.fmkiryu.jp

当社HPへは  
こちらから→



### 企業紹介

市民活動と地元企業の地域貢献の思いから生まれた民設民営のコミュニティ FM局。2007年7月1日開局。周波数は77.7MHz。専従スタッフのほか、ボランティアスタッフ約100人が番組制作に携わっています。オープンなスタンスで、ラジオは目的ではなく、人やモノの情報等を繋げる手段として活用しています。また、開局10周年のタイミングで企業間連携を促進し、地域イノベーション創発のプラットフォーム構築を目指す一般社団法人ジョブラボぐんまを設立し、繋がり促進を目指しています。SDGsぐんま連絡会議法人会員。

### 経緯・背景

- ◆FM桐生は、地球温暖化防止のための国民運動COOL CHOICE活動に賛同し、2018年度から普及啓発番組を企画・制作・放送しています。本事業をきっかけに様々な行政企業団体等ステークホルダーとの連携ができ、低炭素型の豊かな暮らしを提案するイベント「未来の環境」が生まれ、2020年11月には群馬大学と桐生市が実施のDESIGN-i事業（文科省予算採択）の中間報告会が同時開催されました。
- ◆2018年6月1日、FM桐生を母体に市内企業3社共同によるビジネス支援団体「一般社団法人ジョブラボぐんま」を設立。地域経済が発展していないと広告出稿もないということに気づき、まずは地域経済を応援、ビジネス支援に着目。異業種とのマッチング等も実施。

### 具体的な取組

#### ◆未来の環境

2018年度から実施している「未来の環境」は、「環境」・「食」・「健康」をテーマに、楽しみながら取り組む地球温暖化対策の提案を目的に実施しています。FM桐生は、群馬大学理工学部を核に桐生市の産官学金で実施する体験型教育プログラム「未来創生塾」と連携。国内で活躍中の環境専門家による講演会や、地元産野菜の販売・オーガニック食材を扱う店舗の展示試食、桐生生まれの電動コミュニティバスMAYUについての講演や展示等を実施。様々な企業団体、行政と連携が生まれています。イベントは当初FM桐生が主催していましたが、2020年度は桐生市や市民活動推進センター等が主催、FM桐生も協力関係でイベントを実施しています。

#### ◆ジョブラボぐんま

イノベーション創発のためのプラットフォーム構築を目指して地域課題解決のための様々なプロジェクトを展開しています。プラットフォームは、4つのオブジェクト（モノ）から構成されています。①ファイナンス（クラウドファンディングや投資家を紹介しての創業支援）、②コーディネート（桐生信用金庫とNPOキッズバレイとともに地域の高校生就職応援プロジェクトや太田市と連携した女性起業家応援プロジェクト）、③マーケティング（桐生市とシティブランディング機運醸成企画）、④エデュケーション（SCBイノベーションアカデミーの開校、コンサルティングの実施）というように、各オブジェクトを活かした取組の実施や、総務省関東総合通信局と連携し、IoTを活用した地域課題解決のためのセミナーを開催しています。



### 成果・効果

#### ◆未来の環境

第2回のイベントでテーマとした「ゆっくりリズムのまち桐生の宣言に向けて」が、第3回のイベントでは、「ゆっくりリズムのまち桐生」の宣言へと発展しました。

#### ◆ジョブラボぐんま

「イノベーション創発のためのプラットフォーム」の構築をミッションとして掲げていることで、様々なプロジェクトが生まれる仕組みとなりました。関東学園大学と総務省関東総合通信局と一社）ジョブラボぐんまの3社で、6次産業化のイベントを主催するに至りました。現在、群馬県内に6次産業化のプラットフォームの構築を目指すプロジェクトの立ち上げを準備しています。



### 当社にとってのSDGsと、その展望

17の目標のうち、4・質の高い教育をみんなに、8・働きがいも経済成長も、9・産業と技術革新の基盤をつくろう、11・住み続けられるまちづくりを、17・パートナーシップで目標を達成しよう、に該当します。各種取組は、自立分散協調、IoTの理論を人間社会のつながりに応用した地域活性化のための理論「地域コミュニティブランド」の手法を活用しています。地域活動は、人に依存したカンとコツと情熱によって実施されていることが多いですが、残念ながらその人がいなくなったら続かず、地域は何年も変わっていないことを、地域メディアとして取材する立場として実感していました。そこで、地域に足りなかった「理論」に可能性を感じ、この手法を用いて活動。今後も実践に「理論」という両輪で、持続可能な循環型共生社会の構築を目指し、地域メディアとして地域活性化に貢献していきたいと思ひます。